

# <開花期の干ばつ回避>

作成：巨理農業改良普及センター

## 1 8月に入り、大豆開花ほ場が増えてきました

- (1) 6月上旬頃までに播種した「ミヤギシロメ」ほ場での開花が確認されるようになってきました
- (2) 生育状態は概ね良好なほ場が多いですが、上位葉が裏返るなど水不足を示すような姿も目立ちます

## 2 梅雨明け後の降水量は極わずか

- ◆巨理アメダスで7月14日（梅雨明け）から31日までの降水量合計は、台風12号があってもわずか13ミリ（平年の16%）でした

## 3 大豆は開花後、大量の水を要求する植物です

- ◆開花後には、多量の養分吸収が必要になるので、適切な水分もまた必要になります
- ◆水が不足した状態では、根粒菌の活性や着莢数、子実の肥大へのダメージが大きくなります

## 4 干ばつが心配されるほ場では給水しましょう

- ◆給水といっても、水田のように「湛水」するのではなく、播種時や中耕時にできた畦間や、排水用の明きよなどに「通水」します

※ただし、気温の高い日中の通水は避けましょう

- ◆ほ場整備で地下水位の維持ができる「FOEAS（フォアス）」が備わっているほ場では、地下水位40cmの維持に努めましょう